

特別展 橋本コレクション

中国近現代絵画

平成元年6月13日(火)～7月23日(日)

休館日 / 毎週月曜日・第二日曜日
6月19日(月)・26日(月)
7月3日(月)・9日(月)・17日(月)

開館時間 / 午前9時～午後5時
(ただし、入館は4時30分まで)

入館料 / 大人200円(160円)
小・中学生100円(80円)
※()内は団体20名以上



虚谷 「金魚図」



吳昌碩 「牡丹石図」

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14
渋谷駅下車徒歩15分・神泉駅下車徒歩5分
電話 03-465-9421



張大千「水殿清風図」



徐悲鴻「馬図」



傅抱石「萬谷泉声図」



程十髮「鶴歸巢図」



任伯年「花鳥図扇面」

中国の近代は、1840年の阿片戦争を以て始まります。以後、太平天国の乱、義和団事変、辛亥革命、五・四運動、日中戦争、さらに、中華人民共和国の成立、文化大革命を経て現在にいたるこの百五十年は、波乱に富んだ中国の歴史の中でも、際立った激動の時代でした。この間、中国は、様々の面で、近代化を成し遂げていきました。

絵画においても、伝統的文人画から職業的文人画へ、さらに、日本やヨーロッパへの留学生が伝えた西洋絵画の影響を受け、多くの美術学校が設立され、以後の国画の誕生へと展開していきました。そして、中華人民共和国の成立以後、絵画の世界においても社会主義思想の具現化としての一面が見られ、長い中国絵画の歴史の上でも、極めて顕著な変化の時代であるといえます。

本展では、国際的に著名な橋本末吉氏収集の中国絵画の中から、近代初期、上海を中心に活躍した虚谷、任伯年をはじめとし、呉昌碩、齊白石、徐悲鴻ら、中国近現代を代表する画人百五十余人の作品を陳列し、中国絵画の伝統を継承しつつ、新たな境地を開いていった軌跡を概観いたします。

■講演会

6月24日(土) 午後2時～

「盗作の論理—国画改良運動始末—」

奈良大学教授 古原 宏伸氏

7月8日(土) 午後2時～

「呉昌碩とその周辺」

京都大学人文科学研究所助教授 曾布川 寛氏

■美術映画会

6月25日(日) 午後2時～

「中国—瀟江を行く—」「中国農民画の世界」

7月16日(日) 午後2時～

「円山応挙・難福図巻」「蕪村の晩年」

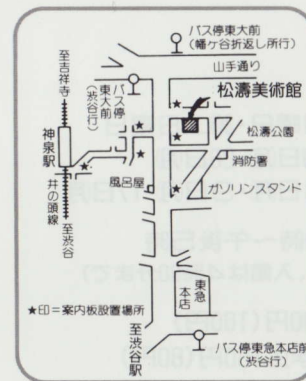
■美術相談

6月18日(日) 午後1時

戸田康一(日本画)、西嶋俊親(洋画)

7月23日(日) 午後1時～

磯村敏之(洋画)、畑農照雄(版画)



- 山手線
波谷駅下車—徒歩15分
- 井の頭線
神泉駅下車—徒歩5分